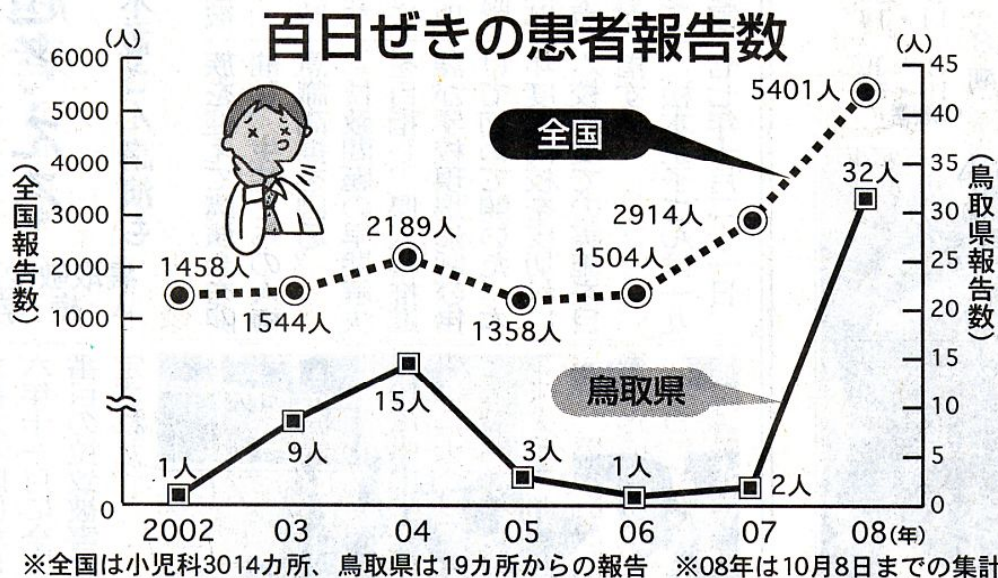


# せき2週間以上続くなら要注意

## 県内流行中 百日ぜき

激しいせきが長期間、力所からの報告では、続く「百日ぜき」の患者は三十二人(今県内の今年の患者報告は月八日現在)。近年で数に過去十年間で最悪は二〇〇四年の十五人のペース。春から夏にかけてが流行のシーズにその数の倍以上になったが、秋に入っても。症状を訴える患者が止まらぬ。厚生労働省の全国調査でも過去十年間では「子どもの最速ペースで増加。大だが、成人患者も急増しているのが特徴だ。立ち、二十歳以上の患者が35%近くを占め、県内の小児科十九

### 過去最悪、成人患者も急増



ただ、県内調査、全に多いとみられる。国調査とも小児科から、予防接種法による定のデータ。免疫力が落期予防接種では、生後ちた成人の患者はさら三カ月以降の乳幼児期

に計四回のワクチン接種を無料で受けられる。しかし、ワクチンの効果は年月を重ねると効き目が減るため、同課は「ある程度まで成長した時期に追加接種が必要」と指摘する。たなか小児科医院(鳥取市)によると、百日ぜきはくしゃみやせきで飛沫感染する。コンコンと乾いたせきが連続的に続き、ワクチン接種を受けていない乳幼児は死亡する可能性もあるという。成人の場合は症状が軽く、発症に気付かないケースも。田中清院長は「大人が感染源となって家族や子ども、職場に広がる可能性が高い。二週間以上のせきは百日ぜきと疑うべき。抗菌剤による治療で症状が軽くなるので、早期に診察を受けてほしい」と呼び掛けている。